

顎顔面外科学入門

Introduction to Oral and Maxillofacial Surgery

キーワード

- ① 顎顔面病態診断治療学
- ② 顎顔面外科学
- ③ 口腔内科学
- ④ 口腔癌
- ⑤ 顎変形症

授業概要

口腔顎顔面部に発生する多彩な疾患の診断に必要な検査法、治療法を学ぶ。特に悪性腫瘍ではPET検査やサイバーナイフ、口腔乾燥症では最新の概念と質的診断方法、口腔粘膜疾患では自己免疫性水疱形成疾患の最新の検査法や治療法を中心に最新の検査法や治療法を修得する。また、コンピュータシミュレーションによる顎変形症の診断と治療、周術期口腔機能管理の概念や方法・成果、終末期患者の口腔管理法についても概説する。さらに、臨床研究を行う上での研究倫理指針、研究計画書作成手順、統計手法、実験方法について教授する。

授業科目の学修目標

顎顔面疾患は多種多彩であり、多くの知識と技術の修得が極めて重要である。また、医科との境界領域にある疾患でも研究活動がグローバルな分野でもある。本授業では口腔癌、口腔乾燥症/自己免疫疾患、顎変形症、口腔機能管理について、疾患概念、検査・診断法、治療法について、実践的で高いレベルの知識を修得するところを目標とする。

授業計画

- ① 顎顔面外科論
 - ・顎顔面外科学概論 2コマ 岩渕博史
 - ・画像検査 4コマ 岩渕博史
 - ・病理検査 4コマ 岩渕博史
- ② 研究倫理指針
 - ・臨床研究における倫理規定 2コマ 岩渕博史
 - ・ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 2コマ 岩渕博史
- ③ 口腔腫瘍論 4コマ 岩渕博史
- ④ 口腔乾燥/口腔粘膜疾患論 4コマ 岩渕博史
- ⑤ 顎変形症論 4コマ 岩渕博史
- ⑥ 口腔機能管理論 4コマ 岩渕博史

教科書および参考書

口腔外科学 医歯薬出版、 口腔内科学 永末書店

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

口腔癌、口腔乾燥症/自己免疫疾患、顎変形症、口腔機能管理における分類法、診断法、治療法などに関する最新の論文やガイドラインを熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 顎顔面外科学における疾患概念、診断、治療法についてを理解する。
- ② 顎顔面外科領域における倫理規範を理解し応用できる。
- ③ 口腔癌の診断と治療法や最近の研究動向を理解する。
- ④ 口腔乾燥症/自己免疫疾患疾患の概念、診断、治療法や最近の研究動向を理解する。
- ⑤ 顎変形症の診断と治療法や最近の研究動向を理解する。
- ⑥ 口腔機能管理の概念、成果、手技や最近の研究動向を理解する。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	40%	0%	0%	30%	30%

評価の要点

- 口頭試問で各講義の理解度を判定する。1%×30回=30%
- レポートは、口腔癌、口腔乾燥症/自己免疫疾患、顎変形症、口腔機能管理の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- その他は、総合的な臨床能力をオスキー形式で判定する。1回30%

理想的な達成レベルの目安

全ての評価の総合で80%以上の達成を求める。